

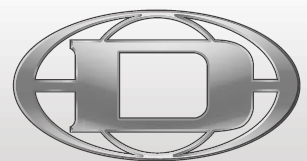


PowerMate³

PowerMate 1000-3 / 1600-3 / 2200-3

パワードミキサー

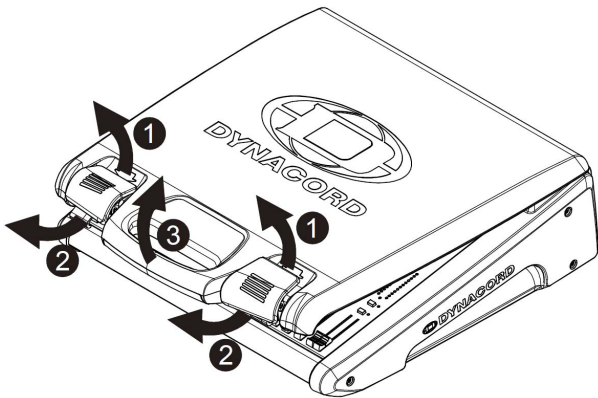
クイックスタートガイド



DYNACORD
GERMAN ENGINEERING EXCELLENCE

PowerMate の迅速でスムーズなセットアップ

起動



準備

- すべてのボリュームコントロールが 0 の位置になっていることを確認します。
 - GAIN, FX, AUX, MON は左一杯
 - イコライザは 12 時の位置
- コンソール下段のすべてのフェーダーが最小位置になっていることを確認します。
- グラフィック EQ (上段右) の小さいフェーダーがすべて中央位置になっていることを確認します。
- 付属の電源コードで PowerMate を電源コンセントに接続します。

スピーカのセットアップ

- スピーカを適切なスピーカ・ポールスタンドに取り付けます。スピーカは観客の頭より高い位置にセットしてください。これで、最前席のサウンド・レベルが高くなりすぎることなく、後部席でも明瞭に聞こえます。
- 次に、スピーカを少し「中央」に向けます。これでアーティストは、別個のステージ・モニター・スピーカ・システムがなくとも、自分の演奏をモニターできます。
- SPEAKON ケーブルを使い、スピーカを PowerMate 背面のアンプ出力ソケットに接続します。SPEAKON ケーブルをスピーカとアンプに接続するときは、コネクタをソケットに挿入した後、カチッという音がするまで右へ回し、しっかり接続します。

マイクロホン

- マイクをセットします。このとき、マイクをスピーカのすぐ前に置かないでください。こうすることで、スピーカから出る増幅されたサウンドがマイクにフィードバックして起きる、不快なハウリングを防止できます。
- まずは 1 本のマイクを入力 1 に接続します。このとき、必ず過酷な使用に耐える高品質マイク・ケーブルを使用してください。細く、硬いケーブルは安価ですが、ステージ上で事故を招くことがあり、機器セットアップ中に起きる問題の最も一般的な理由の 1 つです。

- PowerMate 背面の POWER スイッチを押し、電源をオンにします。ファンタム電源を利用するコンデンサ型マイクを使用する場合は、MIC ソケットと LINE ソケットの間にある PHANTOM POWER ボタンを押し、ファンタム電源をオンにします。ダイナミック型マイクのみを使用する場合は、このボタンを押しおきます。
- 右下の赤色の STANDBY インジケータが点灯したら、STANDBY スイッチを押し、機器を起動します。
注: STANDBY スイッチの設定に関係なく、休憩時間中に音楽を流すことができます (2TRACK IN を使用)。
- [Speaker Protection] メニューで設定したアンプの出力パワーが接続したスピーカの定格と一致しているか確認します。
- マイクを口の近くに持ち、大きな声でマイクのテストを行います。このとき、チャンネル 1 の緑色のシグナル・インジケータ (SIG) が点灯します。次に、最初のチャンネルの GAIN コントロール (チャンネルのモジュールの一番上にあるコントロール) を右へゆっくり回し、赤色のピーク・インジケータ (PK) が短く点滅し始めたら、GAIN コントロールを少しだけ左に戻します。これでこのチャンネルの信号レベルは最適に設定されました。
- チャンネル 1 のフェーダーをフェーダー・パスの上 1/3 の所にある 0 dB マークに設定します。

エフェクトとフィルタ

電源投入シーケンス中、FX 1 ユニットはリバーブ・エフェクト No.5 に、FX 2 ユニットはエコー・エフェクト No.55 にプリセットされます。

- 下段右、緑色のフェーダーの上にある FX 1 ON ボタンと FX 2 ON ボタンを押します。対応する ON LED が緑色で点灯します。
- FX 1 と FX 2 フェーダーを -10 dB マークの位置に移動します。
- マイクに話しかけながら、同時に赤色のマスター出力コントロール (下段右) を慎重に上に押し、出力レベルを上げます。スピーカから聞こえる声にはエコーと残響エフェクトが追加されています。どちらのエフェクトの強さも FX 1 と FX 2 フェーダーを調整し直すことで、希望の量に変更できます。ディスプレイ下のファンクション・ボタンを押して別のエフェクトを選択し、残響の深さや遅延時間も変更できます。エフェクトのグループ内で、強さと深さ/遅延はプリセット番号を上げると増加します。入力チャンネルの個々の設定はそれぞれの FX コントロールを使い、調整できます。
- マイクを接続しているすべてのチャンネルの LO CUT フィルタをオンにします。このフィルタは不要な低周波数 (ステージ上の足音やマイクのハンドリング・ノイズ) を除去します。このフィルタは、トロンボーン、チューバ、バスドラムまたはベースギターの録音以外、ボーカルや木管/金管楽器のマイクでは常にオンにしてください。

19. モノラル入力チャンネルの VOICE フィルタは「か細い」音を出すマイクやボーカルで非常に便利です。音量豊かなボーカルや楽器の音を集音する場合には、必ずしも必要ではありません。

上記の初期ステップを完了すると、PA システムは完全に機能する状態になり、他のコントロールを調整しなくとも高品質のサウンドを提供します。

より良いサウンドのための最も効果的な方法

20. サウンドが期待どおりでない場合は、おそらく、システムに組み込んだスピーカーまたはマイクの品質に問題があります。どうすればサウンド全体の音質低下の原因がスピーカーであるか調べられるのでしょうか。まず、CD プレーヤーを 2TRACK IN 入力 (フロントパネルの右上にある RCA タイプのジャック) に接続し、2TRACK-MASTER コントロールを右に回し、CD プレーヤーのオーディオ信号が聞こえるようにします。さまざまな CD の楽曲を再生してみます。サウンドがナチュラルでクリアならば、おそらく問題の原因はスピーカーではなく、接続したマイクにあります。全体的に出力が弱い、高域だけが強い、低域だけが強い場合は、PowerMate に別のスピーカー・モデルを接続して試してください。
21. スピーカのほかに、空間の音響効果もシステムのサウンドに影響を与えます。マスター・チャンネルには、サウンド全体をさまざまな場所に合わせるためグラフィック・イコライザが装備されています。EQ フェーダーの右にあるボタンを押すとイコライザが起動され、緑色の GRAPHIC EQ - MASTER LED が点灯します (グラフィック・イコライザのルーティングの変更は、取扱説明書を参照してください)。普通は、設定を少し変えるだけでサウンドはよくなります。EQ フェーダーを上端または下端に移動すると、一般的にはサウンド全体の音質が低下し、おそらくハウリングが起こります。
22. 機器をテストするときは、必ず自分の耳で判断し、高価なモデルであってもアナライザに頼らないでください。アナライザを使ったサウンド・レイアウト・システム・システムの調整は非常に複雑で時間もかかります。測定分析装置は必要なパラメータすべてを一度に計算できず、得られた情報の解釈には豊富なスキルと経験が必要なので、ほとんどの場合、その結果は満足には程遠いものです。一方、人の耳はこの情報をすべてリアルタイムで追加費用なしで処理できます。
23. 各チャンネルのサウンド・シェーピング・コントロールを操作して、エフェクトをいろいろ試してみてください。LO コントロールと HI コントロールを慎重に回しながら、音色の変化を耳を澄ませて聞いてください。普通は、少し調整するだけで自分の好みに合わせられます。パネルディスカッションの演壇では、LO コントロールを少し左に回すとよいでしょう、「未熟なアナウンサー」にありがちな不快なポッピング・ノイズ (人の息など「吹かれ」と呼ばれるノイズ) を和らげることができます。HI コントロールは「2 時の位置」に設定すると、ボーカルはより明瞭でより明るい音色になります。

24. マイク・チャンネルの低音 (LO) コントロールと高音 (HI) コントロールの間に「セミパラメトリック MID コントロール」もあります。このコントロールは可変周波数バンドのレベルの増減に使います。MID コントロールは、下の周波数コントロールによって決まる中心周波数のレベルを調整します。このコントロールを少し動かして「音を流し」ながらその効果を理解してください。一般に、MID EQ コントロールはドラムの録音に便利で、トムトムやキックドラムの音がよりくっきりし、スネアドラムの音量が上がります。ボーカルや金管楽器の音を調整するときは、このコントロールを慎重に設定してください。設定を間違えるとおそらく著しく「ひどい」サウンドになります。この場合の最も良い設定は、コントロールを中央位置のままにしておくことです。
25. マイクを選択する時の注意 - ボーカルはカージオイド指向性パターンを示すダイナミック型マイクを使って集音します。このタイプのマイクには高い近接効果と軸外ノイズに強い特性があり、ポッピング音やハウリングに比較的影響を受けません。その一方で、アコースティックギターのようなアコースティック楽器の録音や、ドラムキットのオーバーヘッド・マイクとしては、ボーカル用マイクは正しい選択ではありません。その場合は、コンデンサ型マイクだけが有効なソリューションです。つまり、ボーカル、金管楽器、ドラムが参加するバンドの演奏を録音するときは、最低 2、3 本、タイプの違うマイクを用意する必要があります。それぞれのセットアップでどのタイプのマイクが適しているかは、試してみるしかありません。間違ったタイプのマイクを選び音質が低下しても、ミキサーで補正することはできません。
26. 最後に、外部の 1/3 オクターブまたは 1 オクターブ・バンド・グラフィック・イコライザについて。これらのイコライザは主に、主要なサウンド・レイアウト・システム・システム内でおきる音響問題の補正や、音響フィードバックの除去に使われています。その調整は複雑で非常に時間もかかり、サウンド全体の改善はたいがいごくわずかです。システムのサウンドが望みどおりでない場合、別のスピーカーやマイク・タイプを試してみることが最もよい改善方法です。それでも外部サウンド・シェーピング装置を使用する場合、実際には、それらの機器を使って得られる改善よりも誤った調整で音質全体が低下する可能性のほうが高いので注意してください。

次の手順について詳しくは『PowerMate 取扱説明書』をお読みください。

- スピーカー保護
- エフェクトの選択と編集
- LPN プロセッシング
- イコライザのルーティング
- USB ドライバと Cubase LE ソフトウェアのインストール
- MIDI インターフェースの使い方
- DIGITAL AUDIO INTERFACE を使った録音と再生

Speakon は Neutrik 社の登録商標です。
Cubase は Steinberg Media Technologies 社の登録商標です。

EVI *AUDIO*

www.eviaudio.co.jp

株式会社 イー ブイ アイ オーディオ ジャパン

100-0014 東京都千代田区永田町2丁目13-1 Phone:03-5485-4427 Fax:03-3507-4422

品川サービスセンター/140-0002 東京都品川区東品川4丁目13-34 タカセ(株)東京営業所内 Phone:03-5485-4434 Fax:03-3450-9791

名古屋/Phone:052-331-9691 Fax:052-331-9592 大阪/Phone:06-6464-3109 Fax:06-6464-3099